Color Science Association of Japan

納谷先生を偲んで

富永昌治（元会長，千葉大学）

私が納谷先生に初めて会ったのは，大阪大学での学位取得した1975年に，兵庫県尼崎市にあった電子技術総合研究所大阪支所を訪問したときであった．先生は大阪支所を統括する支所長でした．大阪支所は当時色彩研究の世界的メッカであり，私も色彩研究をするものと期待しておりましたが，先生はむしろ研究業績が少なかった放射線の研究をやるよう依頼されました．納谷先生の研究の興味は広く，色彩のみにあらず，電気計測や放射線分野まで研究指導能力がありました

私が放射線解析の研究をした経験は，後年分光画像の研究に非常に役にたつ結果となりました．私は1年後，大阪電気通信大学の教員として転出しましたが，数年後，納谷先生も電総研をご退職され，同じ大学に教授として赴任されました．

先生は学部では品質管理の教育に携われ，大学院では色彩科学の授業を担当されました．教育・研究における卓越した能力と温かくて思いやりのある先生の人柄のため，全大学人から大変尊敬されました．大学における先生の研究テーマは主に色の見えモデルでした．先生はHuntモデルに競合する，先生独自の非線形色の見えモデルを提案されました．大学の役職として工学部長を務められ，その後も重要な役職に就かれた後，1998年大学を退職されて名誉教授になられました．先生は理事長を含め，多くの人々の信頼を集めており，学長のポストに就くよう依頼されましたが，研究者として残りの人生を過ごすことを望まれました．ご退職後，色彩研究に対する熱意は全く衰えず，むしろ大学教育や管理運営の仕事から解放されて，研究に没頭されました．最近Nayatani Theoretical Color Spaceを新たに提案され，色彩調和やカラーイメージングの応用分野にも興味をのばされました．ご退職後，大阪電気通信大学の私の研究室にお越しになった時や，土曜日の午後，電話を通して，色彩研究の現状と将来について議論し，先生の高話をお伺いするたりすることが楽しみでした．

先生は色彩研究の師に限らず，私の人生の導師でありました．先生のご冥福を心からお祈りいたします．

故　納谷先生を偲んで

側垣博明（女子美術大学）

平成21年5月29日に納谷嘉信先生がご逝去されたと，ご子息（信様）からの喪中ハガキを頂いて驚愕しました．享年82歳でした．

納谷先生に初めてお目にかかったのは昭和39年（1964）の秋でした．先生はカナダ国立研究所（NRC）のビセッキィー博士のところに2年間留学され，帰国後間もない頃でした．先生から「もし，君がもう少し勉強したいなら研究課にきなさい」と言って頂きました．以来，約35年間に亘りご指導賜りました．

私が研究課に移籍した当時「カラーテレビのブラウン管の白色輝度標準（色温度9200K）」を完成されていました．この標準は，国内の家電メーカに配布され日本のカラーテレビの品質向上に寄与し国際競争力の増強に大きく貢献しました．この標準は現在も使われています．

先生が大阪電気通信大学に移られるまでの約15年間は，まさに色彩研究，品質管理，研究室・所の運営と多忙な日々を過ごされました．

色順応研究に取り組んでいたとき，私は実験を担当していました．観測データの解釈に議論が弾みましたが，結論に至りませんでした．その夜，電話を頂き1時間以上にわたり議論が続きました．この結果が後に色順応現象のインターリンケージ・モデルとなりました．更に発展され国際照明委員会（CIE）の「色順応予測法」の制定につながりました．

先生は毎週月曜日の午前中は，輪読会および研究室連絡会を開催されました．輪読会は順番で2名が原著論文を紹介します．発表の途中でも，先生から鋭い質問があったことを思い出します．先生が在任中の約20年間途切れることなく継続されました．

私は偶然にも先生が昨年1月6日に検査入院されたことを知り，翌日お見舞いにお伺いしましたときは，お元気でいつものように次の研究計画をお話下さいました．

納谷先生のご冥福をお祈り致します．安らかにお休み下さい．

NII-Electronic Library Service